



発祥四百年を記念し、新たな時代の幕を開ける 京都四條 南座の新しいロゴタイプが決定しました

江戸時代初期から今日に至るまで歌舞伎発祥の地に建つ劇場として、
歴史と伝統を受け継いで参りました南座が、その発祥から凡そ400年を数える
記念すべき本年11月、12月の二ヶ月に亘る「京の年中行事 當る亥歳 吉例顔見世興行
東西合同大歌舞伎」より新たに開場する運びとなりました。
そしてこの度、南座の新開場に合わせ、
新しいロゴタイプが決定致しましたので発表させていただきます。



南座マークおよびロゴタイプについて

「南」という文字を明快に削ぎ落とした造形に、
「南座の外観」を連想させるかたちを融合したシンボルマークです。
南座の内装に用いられている深紅色をシンボルカラーとしました。
MINAMIZAという読みやすく明快な欧文ロゴと組み合わせて、
使用頻度の高いシグネチャーのパターンを展開していきます。
また、「京と。」というショルダーフレーズを、
シグネチャーと組み合わせて使用することを提案しています。
これは所在地が京都であるということを超え、京都とともに歩んできた来歴と、
これからも京都とともに歴史を重ねて行く南座の姿勢を端的に示すものです。
歌舞伎は象徴と凝縮の美学であると考え、
紋章のような、目を引く強い造形としています。

南座とは



改修工事以前の南座正面外観

歌舞伎の祖・出雲の阿国が「かぶきをどり」を演じたとされる京・四條河原に建つ南座は、歴史と伝統を受け継ぐ日本最古の劇場として、400年に亘り歌舞伎を上演し続けて参りました。伝統的公演はもとより、最新の技術や演出による新たなコンテンツ等も上演し、新しいライブ・エンタテインメントを発信する拠点としての役割を担って参ります。

デザイナー紹介



© Yoshiaki Tsutsui

原 研哉 | Kenya HARA | デザイナー・武蔵野美術大学教授
1958年生まれ。デザインを社会に蓄えられた普遍的な知恵ととらえ、コミュニケーションを基軸とした多様なデザイン計画の立案と実践を行っている。日本デザインセンター代表。武蔵野美術大学教授。無印良品のアートディレクション、蔦屋書店、GINZA SIXのVI、JAPAN HOUSEの総合プロデュースなど、活動の領域は多岐。一連の活動によって内外のデザイン賞を多数受賞。主著に『デザインのデザイン』（岩波書店、サントリー学芸賞）、『日本のデザイン』（岩波新書）、『白』『白百』（中央公論新社）がある。

お問い合わせ

松竹株式会社 南座

TEL | 075-561-1155

松竹ナビ株式会社

TEL | 03-5550-1730

松竹株式会社

URL | <http://www.shochiku.co.jp/>